

2023年8月25日
SPODフォーラム2023

若手職員向け 超入門！ 研究者と学術情報流通



関西学院大学図書館
運営課 課長 井上 昌彦
inoue@kwansei.ac.jp

【本発表内容は私見です】

自己紹介 ①

- 197×年、愛媛県松山市生まれ
- 図書館情報大学
→ 大阪市立大学 大学院 創造都市研究科
- 大学図書館 → 知財本部 →
短大図書館 → 大学図書館

2

自己紹介 ②



- “空手家図書館員”
- マイ・ビジョン：
「情報のチカラで、
世界をもっと幸せにする！」



3

自己紹介（おまけ）



4

本日のスタンス

- 入職数年の若手職員向け
- 概観＝全体像
- 自分自身で考えるための契機の提供

6

本日のゴール

- 研究者を取り巻く世界を理解する
- 大学（図書館）の果たすべき役割や方向性を、
イメージする
- 自分なりの問題意識や関心を持ち、
自ら学び、研究者に寄り添えるようになる

7

本日の内容

1. ゴール&スタンス
2. 研究と学術情報
3. 学術情報流通における変化と課題
4. 大学（図書館）の果たすべき役割
5. 大学職員の学び

8

本日の内容

1. ゴール&スタンス
2. 研究と学術情報
3. 学術情報流通における変化と課題
4. 大学（図書館）の果たすべき役割
5. 大学職員の学び

9

2. 研究と学術情報

1. 背景
2. 学術コミュニティ
 - ① 論文・学術雑誌
 - ② 評価・査読
3. 研究費獲得競争
4. 研究不正

10

2. 研究と学術情報

1. 背景
2. 学術コミュニティ
 - ① 論文・学術雑誌
 - ② 評価・査読
3. 研究費獲得競争
4. 研究不正

11

社会環境の変化

- グローバル化
- 少子高齢化
- 教育／研究への期待
- 国際社会における日本の立ち位置の変化

等々

13

研究界の構造変化

- 学問領域の細分化／学際化
- 研究者の増加 → ジャーナル、論文の増加
- わが国の国際競争力の低下
- 応用研究偏重
- 若手研究者のポスト不足

14

研究力向上政策

- 科学技術・イノベーション基本法＋
科学技術・イノベーション基本計画
- 統合イノベーション戦略2023
- 研究力向上改革2019
- 研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ
- 国際卓越研究大学

15

2. 研究と学術情報

1. 背景
2. 学術コミュニティ
 - ① 論文・学術雑誌
 - ② 査読・評価
3. 研究費獲得競争
4. 研究不正

16

巨人の肩の上に立つ

- 研究＝先行研究＋新規性・独創性
- 根拠にもとづく知見
- 学術コミュニティでの共有・議論

18

「学術情報」とは

学術研究の成果として生み出された情報
およびそれがさらに編集、圧縮、加工されて
生成された情報。

観測、測定、計算データや記録、学術文献
(学術論文、報告書、学術図書や書誌、
索引誌、抄録誌など)、それに個人的な
コミュニケーションが含まれる

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編
「図書館情報学用語辞典」第4版より抜粋 丸善出版、2012

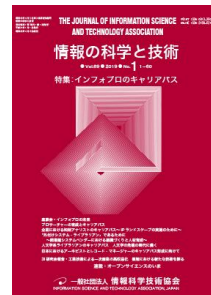
19

論文とは

- 論文＝学術雑誌記事
- 速報性をもって、特定の読者に
- 査読

21

雑誌の例



22

論文の形式 (1)

タイトル

査読の抱える問題とその対応策

著者名

抄録

キーワード

本文

1. はじめに

2. 査読の抱える問題

出典：「査読の抱える問題とその対応策」佐藤 翔
情報の科学と技術 64(3), 115-121, 2016

23

論文の形式 (2)

本文

注・参考文献

延命措置により査読制度が生き続けるのか、査読
る新たな仕組みが確立されるのか。あるいは研究費・論文
文数増の方に先に歯止めがかかる可能性もないではない。
ーションの中核の先行きは不透明である。

注・参考文献

1) 倉田 敬子 4 学術情報流通とオープンアクセス。勁草書房、
2007、196p.
2) Ware, Mark et al. Peer review in scholarly journals.
Publishing Research Consortium, 2008.
<http://publishingresearchconsortium.com/index.php/prc-documents/prc-research-projects/36/peer-review-full-prc-report-finalfile>, [accessed 2015-12-10].
3) 佐藤翔. 査読をめぐる新たな問題. カレントアウェアネス,
2014, no.321, p.9-13.

24

論文の形式 (3)

Special feature Research Ethics. Peer review: Issues and antidotes. Sho SATO (Center for License and Qualification, Doshisha University, Keisuikan 315, Doshisha University, Imadegawa-agaru, Shinmachi-Dori, Kamigyo-ku, Kyoto, 602-8580, Japan)

タイトル・著者名等 (英文)

Abstract Although peer review is the core distinguishing feature of the modern scholarly communication, the feature has not worked today because there are too many researchers and articles for the capacity of the system. As a result, new issues such as absence of reviewers, false peer review and fake reviewer are arising in addition to traditional issues such as reviewer misconduct and bias. To cope with these new and traditional issues, some publishers and researchers have started new approaches including Portable peer review, open peer review and Peer Review Evaluation. However, no one knows whether w... of peer review system with the new approaches.

抄録 (英文)

Keywords Peer review / research ethics / scholarly communication / open access / publishing

キーワード (英文)

25

学術コミュニティとは

- 研究者により構成
- 論文を中心とした知の共有・議論
 - 図書／プレプリント／灰色文献 等も
- 学会・SNSなども

26

2. 研究と学術情報

- 背景
- 学術コミュニティ
 - 論文・学術雑誌
 - 査読・評価
- 研究費獲得競争
- 研究不正

27

査読

- ピア・レビュー
- 一定の品質管理・担保
 - =学術コミュニケーションの根幹
- 査読なし論文 < 査読論文

28

論文・研究の評価

- 絶対的評価指標の不在
 - 査読論文数
 - 被引用数
 - 国際誌／高IF誌
- 論文評価＝人事・外部資金獲得に直結
- 短期評価 → 基礎研究の衰退

29

2. 研究と学術情報

- 1. 背景
- 2. 学術コミュニティ
 - ① 論文・学術雑誌
 - ② 査読・評価
- 3. 研究費獲得競争
- 4. 研究不正

30

研究費の獲得競争

- 学内
- 学外
 - 科研費等 公的資金
 - 特定目的の公的研究費
 - 受託研究／共同研究／プロジェクト
 - 財団等の寄付研究
 - 間接経費

31

科研費（1）

- 基礎から応用まで全分野
- ピア・レビューによる審査
- 国内最大の競争的研究資金
 - 文科省／学振
 - 2,500億円
 - 新規採択26,000件

32

科研費（2）

- 豊富な研究種目・対象者
 - 特別推進研究／基盤研究／新学術領域研究／挑戦的研究／若手研究 等
- 研究機関による管理
- 科学研究費助成事業データベース (KAKEN)
- 間接経費

33

2. 研究と学術情報

- 1. 背景
- 2. 学術コミュニティ
 - ① 論文・学術雑誌
 - ② 査読・評価
- 3. 研究費獲得競争
- 4. 研究不正

34

研究上の不正

- 3つの特定不正行為
- その他の不正
 - オークサーシップ／二重投稿／利益相反／査読上の問題／研究対象者への同意欠如等
- 研究不正防止
 - 研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン
 - 文科省 科学技術・学術政策局に研究公正推進室
 - 研究データ公開（後述）

36

研究費執行上の不正

- 相次ぐ不適切執行
- 経理ルールの厳格化
 - 学内基準に準拠
 - 弾力的運用の余地
 - エビデンス
- 本人の責任 → 大学の責任

37

本日の内容

1. ゴール&スタンス
2. 研究と学術情報
3. 学術情報流通における変化と課題
4. 大学（図書館）の果たすべき役割
5. 大学職員の学び

38

学術情報流通における最大の変化

1. 電子ジャーナルの普及
2. オープンアクセス / オープンサイエンス

40

1. 電子ジャーナルの普及（1）

- 雑誌／論文は、紙から電子へ
- 大学図書館による非来館型サービス
 - 可読タイトルの激増
 - 即時提供
 - 人数制限なし
 - 24時間利用
 - 引用しやすい
 - 保存性

41

1. 電子ジャーナルの普及（2）

- パッケージ／ビッグディールの登場
 - 学術出版社の寡占化
 - 数千タイトルのジャーナルが過去から最新まで
 - イメージ：
 - 300タイトルの紙雑誌を5,000万円で契約
 - ↓
 - 2,000タイトルの電子ジャーナルを5,500円で

42

2. オープンアクセス (1)

- インターネットを介して無料アクセス
- 学術情報の共有・利用促進
- 100,000,000記事、10,000タイトル

43

2. オープンアクセス (2)

- 研究者のインセンティブ
- 義務化の動向
- 方法
 - オープンアクセス誌への投稿 = APC
 - 機関リポジトリ

44

2. オープンアクセス (3)

- 機関リポジトリ
 - 大学の知的生産物を恒久保存・発信
 - 研究支援部門+大学図書館
 - 国内では800機関超、200万本超の文献
 - ほとんどの博士論文を収録 (2013年-)

45

2. オープンサイエンス (1)

- 「オープンアクセスと研究データのオープン化 (オープンデータ) を含む概念」
第5期科学技術基本計画
- 「ICTによるデジタル化とネットワーク化された情報基盤およびその基盤が開放する多量で多様な情報を様々な活用して科学研究を変容させる活動であり、産業を含む社会を変え、科学と社会の関係も変える活動」

林和弘「オープンサイエンスの進展とシチズンサイエンスから共創型研究への発展」 学術の動向23(11) 2018

46

2. オープンサイエンス (2)

- 国際的潮流
 - G8サミット「オープンデータ憲章」
 - G7科学技術大臣会合「つくばコミュニケ」
 - 内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会」
 - G7仙台 科学技術大臣の共同声明
- 各大学にてポリシー策定

47

2. オープンサイエンス (3)

- 研究データ公開
 - エビデンスとして
 - 研究データそのものの活用
- 諸課題
 - インフラ整備/研究者のインセンティブ/人材育成/研究データマネジメント等

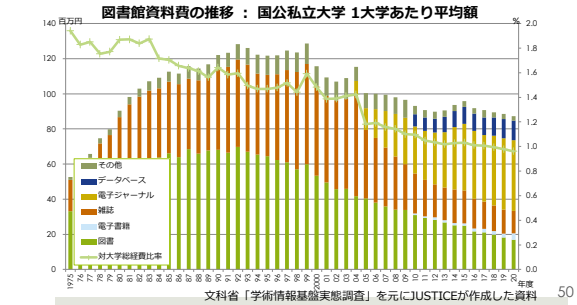
48

3つの喫緊課題

1. 電子ジャーナル購読モデルの破綻
2. 2025年オープンアクセス義務化
3. ハゲタカジャーナル

49

電子ジャーナル購読モデルの破綻（1）



50

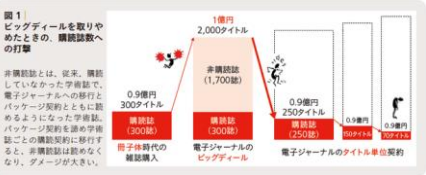
電子ジャーナル購読モデルの破綻（2）

- そもそも高価
- 慢性的な本体価格上昇（外貨）
- 急激な円安

51

電子ジャーナル購読モデルの破綻（3）

- やめられないパッケージ
- 劇的なタイトル増 → 解約時は当初より悪化



52

2025年オープンアクセス義務化

- 公的資金研究のオープンアクセス化
 - 2025年度新規公募分から、成果の論文・研究データとも公開義務化？（＝公開は2026-27年度末頃から？）
- 各大学でポリシー策定必須
 - 論文
 - 研究データ対応が困難（定義・取扱等）

53

ハゲタカジャーナル

- APC搾取目的で、まともな査読抜き＝カネで研究業績が買える状態
- 日本からの掲載は5,000本超？
- 意図しない投稿により、研究者が致命的な不利益を被る可能性
- 社会に直接のリスク

54

本日の内容

1. ゴール&スタンス
2. 研究と学術情報
3. 学術情報流通における変化と課題
4. 大学（図書館）の果たすべき役割
5. 大学職員の学び

55

研究環境に関する支援

- 学内制度の弾力化、体制整備
 - 柔軟なルールの整備 = 不正対策
- 健全な競争環境の整備・促進
 - 学内に競争的資金
 - 科研費申請の促進
 - 専門職による研究・教育支援
(URAやエンベディッド・ライブラリアン)

56

職員の意識

- 全学で議論、部署を超えた連携
- 研究者の時間を捻出
- 重点支援プロジェクト・研究室を設定



57

オープンサイエンス推進

- 研究推進部門 × 大学図書館
- ポリシー策定
- 各種支援
 - リポジトリ推奨／研究データ登録検討
 - ハゲタカジャーナル対策
 - 大学図書館による標準化したデータ登録

58

大学図書館による貢献

- 学術情報流通政策へのコミット
- メタデータ管理等のできる、学内唯一のステークホルダー
 - 標準化／FAIR原則／DOI管理
- 紙媒体管理 → 電子リソースを中心とした学術情報流通の管理・提供

59

本日の内容

1. ゴール&スタンス
2. 研究と学術情報
3. 学術情報流通における変化と課題
4. 大学（図書館）の果たすべき役割
5. 大学職員の学び

60

まずは基礎知識から

- 大学／研究者を知る
 - 大学のミッション、ポリシー
 - 大学基礎データ
 - 外部資金獲得状況
- 政策文書の把握
- 文献／データベースの活用



62

仲間をつくる

- 他部署、学外の仲間（学会／研究会）
- マイ名刺
- 96.2%の方からメールを頂くワザ



63

発信

- 出張報告／雑談
- SNS、ブログ、note
- 執筆・講演
- マイ・ミッション



64

宿題

1. 「3つの喫緊課題」のうちいずれかについて、学内の誰かと「雑談」
2. 上記雑談について、今日名刺交換をした人にメールで報告、意見交換

65

最後に

研究者とともに、よりよい大学を、
よりよい社会を創りましょう！

66